

社団法人日本クラフトデザイン協会

事業評価委員会 議事録（学術・文化の振興のための活動）

日 時：平成 25 年 3 月 23 日（土） 15:00～17:00

※第3回定例理事会の議題として審議された

場 所：酪農会館会議室 A （東京都渋谷区代々木 1-37-20）

出席者：（平成 24 年度理事）相川繁隆 岡本昌子 西川雅典 石原実 関根正文 露木清勝

長谷川武雄 堀内雅博 水野誠子

（平成 24 年度監事）木全 本

（平成 25 年度新任理事候補）林範親 海野えり子 栗原くみこ

●事業の報告について

第 52 回日本クラフト展 一暮らし・みなおしー

平成 24 年 12 月 26 日（水）～平成 24 年 12 月 31 日（月）

会場：丸ビルホール（東京都千代田区丸の内 2-4-1 丸ビル 7 階）

作品点数： 1,137 点（会員 173 名、一般 117 名、学生 37 名 計 327 名）

入場者数： 7,937 名

■併催事業 ○「暮らしのデザイン・メッセ展」

■イベント ○受賞者インタビュー・講演会・対談

○会員による素材別解説 を会期中 7 回開催

●応募状況について

- ・前年度よりも全体の応募者数は伸びた。しかしながら目標には届かず、今後クラフトデザインに関わる、新たな層に向けて発信することも大切である。今後のクラフトデザインの多様性への対応へも繋がるものである。
- ・学生の応募が多く、部門が定着したことが伺える。若い世代の作品の質も非常に高く多くの受賞者も選出された。今後、若い世代が実力を伸ばせるようサポートしていくことも大きな使命の一つである。

●展示について

- ・暮らし・みなおし のテーマを受けて展示設営は可能な限り終了後廃棄するものを減らす工夫をした。また、照明を緻密に調整することにより、シンプルな展示で且つ効果の高い表現を目指し、来場者からの評価も高かった。
- ・身近なテーマのコラボクラフトは面白い取り組みだった。作品の可能性が広がる要素がある。

- ・ホワイエ展示 暮らしのデザインメッセ展は地域、個人の作品やその取り組みを紹介し、作品単体とは違う、活動を多くの人に紹介することが出来た。

### ●展覧会告知について

アンケート結果では知り合いからの紹介が多い、草の根的な活動も拡充すると同時に、ホームページ、メールマガジンなど情報のツールなどの検討も必要。

今年は例年より多く招待券の配布を行った。その効果は入場者数に表れており、多くの事業へのファンを獲得できた。

最終的な入場者数は目標を大幅に下回ったが、その大きな原因は10日会期の予定が6日間で実施せざるを得ない状況になったからである。これまで一日平均900人程であったが、本年度は1300人程と大きく伸びている。今後も継続した広報を行う。

### ●来場者へのサービス

- ・キャプションに作者の出身地や短いコメントを付けたら、より作品の理解が進む。
- ・会員による素材別解説、また受賞者インタビューは制作者からの直接のメッセージであり、来場者もクラフトや文化を深く知る機会でもある。今後も継続されたい。

### ●事業目的の達成について

今回のクラフト展では応募者数、入場者数共に目標の数字への達成は果たせなかったが、応募では学生、若い世代の応募者の増加と質の向上が大きなプラスの要素である。大学生だけでなく高校生の応募もあり、学校ぐるみで取り組んでいるところもある。将来に向けて、この芽を育てていく必要がある。

今後はクラフトの新たな可能性を模索し、テーマ性のある部門の新設や国際舞台を視野にいたした展開を検討していくべきである。

入場者数については年末の開催にも関わらず、始終来場者の途切れることはなかった。来場者一人ひとは、クラフト文化の大きな伝道師でもある。今後も事業継続に向けた尽力が必要である。

以上